Actions
アクションズ
若手医師活動報告

虹色のサラダボウル

レインボー医師有志の会（仮）
ベネデック　安理
ストレスケアすすきのクリニック　精神科　副院長

「男の子なんだから泣くな」、「女の子なんだからおしとやかにしなさい」

昔の話だが、私が子どもの頃にこのような言葉は日常的によく聞かれていた。しかし近年は生物学的性別、心理的性別（Gender Identity）、性表現（Gender Presentation）、性指向（Sexual Orientation）の要素からセクシャリティはグラデーションであると認識されつつある。

レインボーカラーはLGBTのセクシャリティの多様性を表す社会活動を象徴しており、それぞれの色に意味が込められている。

赤は命（Life）、橙は癒やし（Healing）、黄は太陽（Sunlight）、緑は自然（Nature）、青は調和（Harmony）、紫は精神（Spirit）を表す。

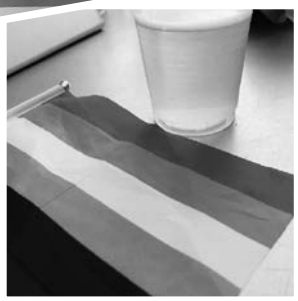
病院に行くと好奇の眼差しで見られるかもしれない、私生活について根掘り葉掘り聞かれるかもしれないと思うとなかなか病院へ足が向かないとLGBT当事者が言っていた。トランスジェンダーの対応には他科連携が必要であるし、セクシュアリティについて医療者も理解を深めなければと思っていたところ、私と同じようなことを考えている医師たちがいることを知った。「LGBTと医療」というテーマに関心のある医師が、診療科の垣根を越えて、交流と情報交換をしていこうという流れとなり「レインボー医師有志の会（仮）」を立ち上げた。この会の初期メンバーは藤根美穂先生（小児科医/臨床心理士/公認心理士）、村山友規先生（札幌医科大学神経精神科/精神科）、奥村まゆ先生（精神科）、そして私（ストレスケアすすきのクリニック/精神科）の医師４人である。「レインボー医師有志の会（仮）」始動第一号の活動は、さっぽろレインボープライド（LGBT当事者、理解者、支援者による街頭行進、参加型の活動）に参加し、LGBTと医療に関するアンケート調査を行うというものだった。当日は心理学部の学生さんも参加された。

1996年、札幌にて日本国内で２番目のLGBTパレードが開催され、その後もほぼ毎年その活動が続けられ、2019年にも大々的に行われた。大通付近の道路が歩行者天国となり、数多くのブースが並べられ、札幌市長のスピーチもあり、多くの人で賑わっていた。大学サークルのブース、レッドリボンのブース、弁護士会や司法書士のブースもあり、それぞれの特技を生かして当事者の相談に乗っていた。私たちが作成したアンケート内容は、

①医療機関を受診する時に困っていることは何か
②ホームページ上にどのような情報があると受診しやすいか
③問診票でセクシャリティについて尋ねられる場合はどのような質問だと答えやすいか
④医療従事者から受けた元気づけられた一言、傷つく一言はあったか
⑤医療機関を受診する時、どんなことに配慮してほしいか
⑥LGBTに理解があることを示す「LGBTフレンドリーマーク」を掲げる医療機関があることを知っているか
⑦（差し支えなければ）回答者のセクシャリティは何か（L. G. B. T. Q. どれでもない）

歩いている人を呼び止めてアンケートを書いてもらうという試みはハードルが高かったが、快く回答してくれた方もいた。回答者はゲイとレズビアンであったが、いずれもLGBTフレンドリーマークの存在を知らず、院内に名前で呼ばれることに抵抗があるということが共通していた。セクシャリティについては女性、男性、FTM、FTX、MTF、MTXを〇で囲むことを希望する方、女性、男性、その他という欄を希望する方がいた。受診する上で困っていることは、家族じゃないからという理由でパートナーについての治療上の説明を医療機関側から断られるというものであった。残念ながら今回はトランスジェンダーの

方にアンケートをお願いすることができなかったが、もしできていたらまた違った意見が聞けていただろう。見ず知らずの私たちが当事者に突然話しかけ、アンケート７項目について回答をお願いすることはなかなか大変であったため、今回を教訓とし、来年は私たちが何者なのかが分かるよう、弁護士会や司法書士スタッフのようにユニフォームを着用しようということになった。当事者がもっと簡単に回答できるよう、アンケートをシール方式にするという案も出た。改善すべきポイントはいろいろあったものの、診療科の垣根を越えて有志が集まれたことは意義があったと思う。

私たちの草の根活動はまだ始まったばかりだが、今後もメンバーで不定期に集まり、情報交換会や勉強会を行う予定である。交流しているうちまた新たなアイディアが湧いたりして今後の方向性がもっと見えていくだろう。今後新たにメンバーが増えれば活動の幅も広がるし、それぞれの診療科ならではの意見を交換し合えるようになり、活動内容はどんどん面白くなっていくだろうと思う。

当日アンケート調査を終えてブースを一巡りした後、パレードが始まった。参加者が一斉に列を作り、レインボーカラーのフラグやバルーンを手にし、ポップな音楽に合わせて大通から札幌駅付近まで行進した。ドレスをまとった大柄の方たちがマイクを持ち、バルーンでカラフルに飾り付けられたデコトラックの屋根に立ち、ちょっと太い声を響かせながら面白おかしくパレードを盛り上げた。人々は思い思いの格好を楽しみ、自由と多様性を象徴するパレードを満喫しているようだった。パレードを見ている人たちも笑顔で大きく手を振ってくれた。パレードが終わった後は皆でバルーンを一斉に空に放ち、色とりどりのバルーンが空高く上っていった。地上には笑顔があふれていた。